

イブキコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> Wettst. subsp. <i>iinumae</i> (Takeda) T.Yamaz.	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ゴマノハグサ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(箕浦博之) 
形態の特徴	茎は直立して下部で分枝し、高さ15cm前後の1年草。葉は倒卵形で、縁に先の鈍い鋸歯がある。花期は7-8月。上部の葉腋ごとに長さ8-9mmの1花をつける。萼は広鐘形で、半ばまで4裂し、裂片は三角状披針形で先は鈍く、縁に短毛が密生する。花冠は白色で紫色の条があり、下唇の内面に黄斑がある。	
生態的特徴	山地帯の日当りのよい草地に生える。	
分布状況	日本固有種。本州(滋賀県の伊吹山、霊仙山)に分布する。県内では県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の西部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良